

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 ↑ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 ↓ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価				
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)		
1	内発的産業の振興による安定した雇用の創出	①	従業者数 (経済センサス)	-	全産業 14,409 (民営 13,451)人 (平成26年)	全産業 - (民営 13,042)人	- 人	- 人	- 人	全産業 15,267 人	全産業 15,267 人	○	※2021年度(令和3年度)実施の経済センサス(活動調査)の結果による。			
		(1)	地域資源を活かした内発的産業の振興	1	市内園芸産品の販売額	農林振興課	463,000 千円 (平成26年度)	478,000 千円	450,000 千円	430,013 千円	508,555 千円	530,000 千円	530,000 千円	↓	①産地直売なの花等の閉店の影響はあるものの、あぐりっと等の売上増により、市内直売所の販売実績は前年度より増加した。 ②道の駅が開設されたことで、新たに市内生産者の販売場所が確保された。 販売額 +78,542千円(前年比較) 【令和元年度実績内訳(前年度実績)】 ・みやぎ仙南農協(角田市)園芸部会の販売実績 357,820千円(353,000千円) ・市内直売所(あぐりっと等15カ所)の販売実績 79,220千円(77,013千円) ・道の駅(市内生産者) 71,515千円(純増)	引き続き、生産者の確保や生産拡大に向けた支援を行うとともに、道の駅を活用したさらなる農産物の生産拡大に取り組む。
				2	遊休施設のリノベーションの件数	まちづくり交流課	- (平成26年度) 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	○	平成28年度の創業支援事業で、民間の遊休施設(コワーキングスペースの2階)を改修し、起業・移住希望者等の滞在施設としてゲストハウスを整備した。
		(2)	市内企業への支援による企業の強化と雇用の拡大	3	市内製造業の従業者数 (経済センサス-基礎調査又は工業統計調査)	商工観光課	5,735 (平成26年度) 人	5,587 人	5,772 人	6,089 人	- 人	5,900 人	6,100 人	-	令和元年度実績については、経済産業省の工業統計調査における地域別統計表が未発表のため達成状況の判定が出来ていない。	新たな企業の進出などの企業誘致や、既存企業の工場増築などの経営向上を推進し、常用雇用の増加を推進する。
				(3)	足腰の強い「農林業」の再生と生産物の高付加価値化	4	農業生産法人の数	農林振興課	11 法人 (平成26年度)	14 法人	14 法人	15 法人	16 法人	14 法人	18 法人	↓
		5	認定農業者などの数			農林振興課	302 (平成26年度) 人	307 人	312 人	292 人	273 人	312 人	312 人	↓	【令和元年度実績内訳】 ・認定農業者 180(-15) ・認定新規就農者 2(-1) ・中核的担い手 91(-4)	新規で認定を受ける方もいるが、高齢のために辞める方が多い。国・県の支援策などを活用し、認定農業者へのサポートを充実させ、中核的担い手や若手農業者から認定農業者への増加を目指す。
		6	「こめ・まめ・うめ」を活用した新たな特産品の開発数			商工観光課	- (平成26年度) 品	4 品	10 品	18 品	24 品	10 品	25 品	↑	道の駅かくだの開業により新たな特産品の開発が促進された。 1 角田産米使用・農家の麻婆丼 まちづくり角田 2 角田産うるち米使用・米麴 丸上青果 3 角田産大豆使用・柿酢漬け大豆 丸上青果 4 角田産玄米使用・玄米餅 丸上青果 5 角田産大豆とうち米使用・豆餅 丸上青果 6 角田産梅干し使用・梅うどん 宮城の熊さん	①道の駅かくだを拠点として商品開発を促進させる。 ②市内事業者に捉われずにOEM(商品開発製造委託)による商品開発を並行して推進する。

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 ↑ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 ↓ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価		
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)
	(4) 次世代成長産業の育成支援	7	創業支援事業計画に基づく創業支援を受けた創業者数	商工観光課	- (平成26年度) 人	0 人	3 人	5 人	5 人	4 人	7 人	↑	①創業者予備軍を発掘し、ビジネススクールや伴走型支援などにより、創業へ向けた支援を実施している。(創業実績:0件) 【創業支援内容】 ・ビジネススクール 受講者28名(延べ) ・伴走型支援 3名 ・市内外コミュニティ構築 参加者58名(延べ) ・食の起業家サポートWS(基礎編) 1名 ・食の起業家サポートWS(実践編) 2名 【創業者への優遇措置】 ②特定創業支援事業(ビジネススクールや伴走型支援)を受けた創業者に対する優遇措置 ・登記時の登録免許税の軽減 ・創業関連保証の特例	今後も、創業へ向けた支援を実施し、創業を実現する。
2	地域資源を活かした移住・定住の推進	②	転入者数 (住民基本台帳に基づく人口移動調査年報)	-	925 (平成26年) 人	1,012 人	920 人	919 人	887 人	1,000 人	1,000 人			
	(1) 移住・定住等の推進	8	地域おこし協力隊員の移住・定住率	まちづくり交流課	- (平成26年度) %	- %	- %	- %	100 %	50 %	50 %	○	①平成28年度に2名を採用した2名の任期が令和元年度で満了した。引き続き新たな任用募集を行う。 ②地域資源を活かした活動(高蔵寺さくらまつり、田んぼアート、SNSを活用した情報発信等)を展開し、任期終了後の創業、定住に繋がった。	①平成28年度に採用した地域おこし協力隊員は令和元年度に任用期間が満了し、新たな任用に向け、募集活動を続けていく。 ②民間事業者と連携しながら、新たな隊員の募集を行い、「おためし地域おこし協力隊」制度を活用し、採用していきたい。
		9	住宅取得助成件数	まちづくり交流課	43 (平成26年度) 件	66 件	67 件	78 件	- 件	50 件	(平成30年度で事業終了)		①定住促進、角田・いらっしやいプラン推進事業補助金は、消費税増税に伴う国の住宅取得支援制度の拡充などにより、本市の事業内容を超える制度が創設されたこと等を踏まえ、平成30年度で事業を終了した。 ②令和元年度より結婚新生活支援事業補助金を創設し、若い世帯の定住支援をはじめた。 ③子育て世代に地域の魅力を発信するため、フリーペーパー等を活用したPR事業等に取組んできた。	①フリーペーパー掲載等による子育て世代への情報発信に努めていく。 ②県内で開催される子育て世代を対象としたイベント等へ定期的に参加し、参加者アンケートを行いながらニーズを捉えていく。
		10	市ホームページへのアクセス件数	総務課	193,344 (平成27年度見込) 件	199,120 件	199,418 件	180,379 件	316,279 件	203,000 件	203,000 件	○	令和元年東日本台風災害の影響により、アクセス数が大幅に増加した。(災害の影響があった期間以外のアクセス数は、ほぼ例年並み)	令和2年10月にホームページをリニューアルし、市民を始めとする利用者にとって「分かりやすく、使いやすく、安全な」仕組みを構築するとともに、災害時の情報発信力の強化を図る。これにより、市政情報やイベント情報など、タイムリーな情報発信に努め、アクセス件数の増加を目指す。
		11	空き家改修助成件数	まちづくり交流課	- (平成26年度) 件	5 件	10 件	14 件	- 件	8 件	(平成30年度で事業終了)		①定住促進、角田・いらっしやいプラン推進事業補助金制度の終了に伴い、中古住宅改修助成制度がなくなったことから、今後の施策について検討している。 ②民間事業者と連携しながら、空き家バンクの有効な活用方法を検討している。	民間事業者と連携しながら、空き家バンクの有効な活用方法を検討していく。
		12	結婚新生活支援事業数	まちづくり交流課	- (平成30年度) 件	- 件	- 件	- 件	18 件	- 件	20 件	↑	若い世代の婚姻に伴う新生活を経済的に支援した。	事業PRを行い、事業の認知度を高めていく。
		13	市営住宅の水洗化戸数	都市整備課	156 (平成26年度) 戸	210 戸	224 戸	235 戸	- 戸	235 戸	(平成30年度で事業完了)		計画において、予定していた水洗化事業は達成した。 ※平成29年12月22日に老ヶ崎住宅の1戸を政策空家とし、水洗化をしないことと決定したことにより、目標値を236戸から235戸へ変更済み	令和元年度の公営住宅等長寿命化計画の改訂により今後の取組を検討していく。

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 ↑ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 ↓ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価			
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)	
	(2) 地域資源を活かした観光振興と交流人口の拡大	14	道の駅かくだの入込客数	商工観光課	- (平成26年度) 人	- 人	- 人	- 人	1,012,884 人	750,000 人	1,000,000 人	○	①平成31年4月19日に平成最後の道の駅として開業。10月の令和元年東日本台風や年明けからの新型コロナウイルス感染症拡大、外出自粛の影響を受けたが年度内に100万人を達成した。 ②入込客数は買い物客数を基礎として推計。推計方法は、整備実施計画策定時に採用した「買い物客比率(来場者における買い物をする人の比率)」を用いる。(買い物比率/平日:20パーセント/土日休日:35パーセント)	①土日・休日の来訪者を確保するため、Kスポとの連携、販売事業者との連携を図る。 ②市外からの来訪者を確保するため販売イベントを実施する。	
		15	イベントやアンテナショップを活用したシテセールスの回数	商工観光課	4 (平成26年度) 回	5 回	6 回	5 回	3 回	6 回	6 回	↑	①友好都市である東京都目黒区や銀河連邦共和国としてつながりのある神奈川県相模原市のイベントへ参加し、角田の物産PRを行った。 ②また、東京都池袋にある宮城県アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」に出店した。 【令和元年度実績内訳】 ■東京都目黒区 ・目黒区民まつり(730,280円) ・自由が丘女神まつり(中止) ■東京都池袋 ・宮城県アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」(34,720円) ■神奈川県相模原市 ・相模原市民若葉まつり(903,760円) ・潤水都市さがみはらフェスタ(中止)	今後も、友好都市や銀河連邦を中心に角田の物産を多く取り扱う株式会社まちづくり角田と連携し、PRを行っていく。	
		16	かくだ牟宇姫ひなまつり集客数	商工観光課	1,000 (平成26年度) 人	2,000 人	1,200 人	1,700 人	0 人	2,500 人	2,500 人	2,500 人	↓	①新型コロナウイルス感染症の影響により3月1日に開催予定であったイベントは直前で中止となった。 ②ひなまつりのタイアップ企画として街中商店街を中心に27店の協力をいただき、今年度新規で取り組みを行った「牟宇姫お買い物スタンプラリー」(期間:2月15日~3月15日)では、238名からプレゼントへの応募があった。	①「牟宇姫」企画として郷土資料館の「企画展 雛人形」とタイアップして実施していくが、内容規模については見直しが必要である。 ②まちなかイベントとして大切にしていきたいために商店街及び商店の巻き込みが重要となる。
		17	かくだスポーツレジャの年間利用者数	生涯学習課	241,051 (平成26年度) 人	246,672 人	253,833 人	261,014 人	202,000 人	245,000 人	285,000 人	285,000 人	↓	10月の令和元年東日本台風被害により、利用者数の多い総合体育館、陸上競技場、テニスコートが3月まで利用できず、早めに復旧再開した施設も、新型コロナウイルス感染症対策により、3月は利用停止、制限を行った結果、前年度より大幅に利用者数が減少した。 【令和元年度実績内訳】(前年比▲59,014人) ・総合体育館48,879人(▲31,056人) ・温水プール69,814人(▲8,468人) ・陸上競技場20,245人(▲13,416人) ・野球場7,405人(▲1,172人) ・多目的運動場5,240人(▲1,177人) ・多目的芝生広場6,784人(▲1,687人) ・テニスコート13,580人(▲4,790人) ・ゲートボール場243人(31人) ・交通公園(自転車利用)17,167人(4,606人) ・スポーツ交流館12,643人(▲1,885人)	①災害復旧工事の完了 新コロナ感染症の収束による再開に向け、災害復旧工事の早期竣工を目指す。 ②Challenge Million市民会議の取組 ・道の駅とスポーツの連携を図り、健康づくりの拠点化を目指す。 ・交通公園内に新たに大型遊具を設置し、幼児の遊びの場を提供する。 ③スポネットかくだの活動の定着化 スポネットかくだの活動の定着化を支援し、市民のスポーツ実施率を向上させ、施設利用の増加を図る。
		18	総合案内表示板の設置数	商工観光課	4 (平成26年度) 基	4 基	5 基	6 基	- 基	6 基	6 基	(平成30年度で事業完了) 基	-	平成27年度に策定した観光ルートサイン計画に基づき、平成29年度に観光ルートサイン設置工事を行い、平成30年度に道の駅かくだへの設置により完了した。 【平成30年度実績内訳】 ・角田駅 2基 ・台山公園駐車場 1基 ・スペースタワー・コスモハウス 1基 ・かくだ田園ホール 1基 ・道の駅かくだ 1基	予定通りの設置基数となった。内容が古くならないようメンテナンスを丁寧に実施する。



角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 △ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 △ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価		
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)
		19	地域資源を活かした滞在型ウォーキングイベントの開催数	商工観光課	- (平成26年度) 回	1 回	1 回	3 回	- 回	3 回	削除 (No.20に集約) 回	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27、28年度 四方山トレッキング</li> <li>平成29年度 TBCラジオウォーク、四方山トレッキング(中止)</li> <li>平成30年度 牟宇姫花見マーチ、四方山トレッキング、牟宇姫ひなまつりウォーク</li> <li>令和元年度 四方山トレッキング(中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①四方山トレッキングは市外からの参加者もおり好評を得ているので、継続して実施する。</li> <li>②道の駅かくたの開業により、道の駅を拠点としたウォーキングコースづくり、併せてサイクルツーリズムの拠点化について検討を進める。</li> </ul>
		20	体験型観光メニュー利用者数	商工観光課/ まちづくり交流課/ 生涯学習課	- (平成30年度) 人	- 人	- 人	- 人	148 人	- 人	1,940 人	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グリーンツーリズムの実施は行っていない。(令和元年度計画なし)</li> <li>②阿武隈急行と連携するモニターツアーは令和元年東日本台風災害の影響に伴い中止した。</li> <li>③子育て世代をターゲットに計画したモニターツアーは、開催直前に新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止した。(定員30名に対し、69組より参加申込があり、抽選により12組の親子が参加予定だった。)</li> <li>④参加予定者にモニターツアーに関するアンケート調査を行い、角田市に対する観光ニーズがあることが確認できた。</li> <li>⑤かくたスポーツビレッジと道の駅かくたが連携したスポーツ型体験事業を試験的に実施。令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症対策により、10回のうち4回実施し、いずれも定員を超える予約があるなどニーズ把握を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①道の駅かくたを拠点とした体験型観光メニューの開発、実施を行っていく。</li> <li>②複数のモニターツアーを企画し、観光ニーズの掘り起しに取り組みながら、地域公共交通の活用策について検討を進める。</li> <li>③スポーツ体験型事業は、感染症対策を十分に講じながら、秋以降の再開を目指し、事業の定着化を目指す。</li> <li>また、グリーンツーリズム等の体験型観光事業の開発、実施も行っていく。</li> </ul>
3	若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備	③	子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合 (角田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査)	-	15.6 (満足2.1 + やや満足13.5) (平成25年度) %	- %	- %	13.8 (満足2.2 + やや満足11.6) %	%	30.0 %	30.0 %	△	※令和2年度実施の市民アンケート調査の集計結果を実績値とする。	
(1)	結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援や学校教育の充実	21	婚活イベントなどの開催数	生活環境課	5 (平成26年度) 回	10 回	12 回	9 回	- 回	8 回	- (平成30年度で事業終了) 回	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画期間中の実績は、次のとおり。</li> <li>かくた・婚活大作戦(交流イベント): 10回</li> <li>かくた・婚活セミナー(事前セミナー): 18回</li> <li>かくた・婚活セミナー(特別セミナー(親等対象)): 3回</li> <li>かくた・婚活大作戦参加者数: 男性143名、女性131名</li> <li>カップル数: 59組</li> </ul>	令和元年度から結婚に伴う経済的負担軽減の観点により「結婚新生活支援事業」(まちづくり交流課)へ移行した。
		22	第2子以降の出生数	子育て支援課	112 (平成25年) 人	93 人	78 人	82 人	77 人	140 人	140 人	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の出生数が減少傾向(平成26年度159人⇒令和元年度128人)、全出生数に占める母35歳以上の割合が増加傾向(平成26年度16.8%⇒令和元年度27.3%)のため、第2子以降の出生について今後増加するかどうか懸念される。</li> <li>◎平成30年人口動態統計(概数 令和元年6月7日厚労省発表)</li> <li>合計特殊出生率 (1人の女性が生涯に産む子どもの数) 全国 1.42(平成29年:1.43) 宮城県 1.30(平成29年:1.31)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て世代包括支援センター事業により、妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援を提供する。</li> <li>②健診事業や相談事業等安心して産み育てるための母子保健施策の充実を図る。</li> <li>③子ども医療費助成、小学校入学祝い子育て応援券等の施策の効果を検証し、必要に応じて内容を見直ししながら、引き続き乳幼児の保護者の負担軽減を図っていく。</li> <li>④円滑な保育施設の経営を促進することにより、安心して子育てできる環境を整えていく。</li> </ul>

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 △ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 △ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価			
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)	
		23	保育所入所待機児童数	子育て支援課	13 (平成26年度) 人	21 人	36 人	7 人	7 人	0 人	0 人	△	①核家族及び共働き世帯の増加等で低年齢児を中心に保育需要が高まり、保育所利用希望者が増えている。加えて、国による幼児期の教育・保育無償化により、さらに保育需要が高まってきている。 ②認定こども園の新規開園による保育定員の増加によって、平成30年度の待機児童数は大きく減少しており、確実に施設整備の効果が出ている。 ③平成31年4月、角田保育所の後継施設として角田光の子保育園が開園。今後も施設規模と保育士の確保できる範囲でできる限り多く受け入れていく。 ④しかしながら、保育需要の高まりの影響等もあり、待機児童ゼロには至っていない。	①保育所入所児童の利用調整を綿密に行い、効率的な施設利用となるよう、また、保育の必要性に応じた適切な調整結果となるよう努めている。 ②幼児教育・保育の無償化により、連絡を密にする教育・保育施設の協力を得ながら、待機児童の解消に努める。	
		24	全国学力・学習状況調査における平均正答率 ※各年度の実績値については別冊【資料1-3】平成31年度全国学力・学習状況調査概要(角田市教育委員会)参照。	教育総務課	- (平成26年度) %	「平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)において、平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表はせず、その分析結果を併せて公表することとされていることから、本指標の実績値については別冊【資料1-3】を参照することとしている。				%	令和元年度の 全国の 平均正答率 %	%	削除 (No.25に移行) %	①小学校の平均正答率については、国語、算数ともに全国平均に及ばなかった。平成30年度と比較すると、国語で、全国平均に近づいている。 ②中学校の平均正答率については、国語、数学、英語ともに全国平均に及ばなかった。 ※なお、総合戦略の具体的な施策である志教育を推進するための指標としては、学力調査の結果より、「豊かな心の育成とすべての学力の基礎となる読解力の向上を図ることができる「読書」についての指標がよりふさわしいと考えることから読書の貸出冊数に指標を見直すもの。(学力調査結果についてより、志教育との関連性が強いと考える。)	今後も学力向上に取り組む。 ・「角田市学力向上ゆめプラン」をもとに学校、家庭、行政の役割を明確にして、児童生徒の学力の向上と生きる力の育成に取り組む。 ・宮城教育大学との連携を活用し、教師の指導力向上を目指した研修会を実施する。 ・宮城県総合教育センターの指定を受け小中学校連携した学力向上の取り組みを推進する。 ・学力向上推進委員会において具体的な学力向上に向けた方策を検討し、各学校と連携して進める。 ・市独自の学力テストを実施し、成果と課題を明らかにした上で、授業の改善などの対策を講じる。
		25	市内小中学校図書館の一人当たりの年度内貸出冊数	教育総務課	22.5 (平成30年度) 冊	19.55 冊	21.4 冊	22.5 冊	24 冊	- 冊	24 冊	○	令和元年度で一人当たり年間24冊(月2冊)の貸出が達成された。	令和元年度貸出冊数の小学校と中学校の平均貸出冊数は下記のとおり。 ・小学校全体一人当たり貸出数 35.62冊 ・中学校全体一人当たり貸出数 2.35冊 中学校になると極端に貸出冊数が減少していることから中学校での読書の習慣化が求められる。各中学校で朝読書や図書委員などを中心に取組を行う。	
		26	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における平均獲得点数 ※【】は全国の平均	教育総務課	小学5年生 男子 50.2【50.0】 女子 51.6【50.0】 中学2年生 男子 48.7【50.0】 女子 48.1【50.0】 (平成26年度)	小学5年生 男子 49.9【50.0】 女子 49.7【50.0】 中学2年生 男子 48.9【50.0】 女子 45.3【50.0】	小学5年生 男子 48.6【50.0】 女子 50.4【50.0】 中学2年生 男子 48.4【50.0】 女子 47.4【50.0】	小学5年生 男子 48.2【50.0】 女子 50.2【50.0】 中学2年生 男子 48.9【50.0】 女子 49.9【50.0】	小学5年生 男子 48.3【50.0】 女子 48.4【50.0】 中学2年生 男子 48.8【50.0】 女子 47.4【50.0】	点	令和元年度の 全国の 平均獲得点数 点	令和3年度の 全国の 平均獲得点数 点	△	①小学5年生は、男子は全国平均獲得点数から1.7ポイント、女子は1.6ポイント下回った。 ②中学2年生は、男子は全国平均獲得点数から1.2ポイント、女子は2.6ポイント下回った。 小学校、中学校とも前年度と同様か下降している。 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果では運動に対する意欲(好き・嫌いなど)は全国を上回っている項目が多いが、体格に関する調査(身長・体重)では肥満が多い傾向である。	①小学校・中学校ともに運動機会の確保に向けて継続的に取り組んでいく。 ②小学校では、児童が運動好きになるような授業づくりや体を使った自主的な遊びを促す場づくりに取り組む。 ③中学校では、生徒の多様性に対応し、生徒に自己肯定感や達成感を味わわせることができる授業づくり及び部活動経営に取り組む、運動意欲の喚起を図る。 ④小中学生ともに正しい生活習慣の確立を図る。
(2)	子育て支援によるワーク・ライフ・バランスの実現	27	審議会などへの女性委員の登用率	企画財政課	18.0 (平成26年度) %	18.0 %	24.0 %	27.5 %	28.2 %	40.0 %	40.0 %	△	①審議会等の新設又は委員の改選・補充にあたり、積極的な女性委員の登用について所管課等に呼びかけを行った。 ②令和元年度は前年比+0.7%であり、年々上昇傾向にある。 ③直近2年の女性登用率については、令和元年度は堅調な伸びを見せたが、以下のとおり、令和2年度は軟調しており目標には至っていない。 【平成31年4月1日時点(令和元年度実績)】 委員会等17件、委員等数142人、うち女性40人 女性の割合28.2% 【令和2年4月1日時点(令和2年度実績)】 委員会等29件、委員等数337人、うち女性68人 女性の割合20.2%	目標達成には至らなかったが、引き続き所管課等への呼びかけをことあるごとに行うほか、政策・方針決定過程への女性参画の必要性についての啓発を更に積極的に実施する。	



角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 △ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 △ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価		
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)
4	安全・安心で住み続けたくなる「まちづくり」	28	角田市役所における男性職員の育児休業取得率	総務課	0.0 (平成26年度) %	0.0 %	9.1 %	0.0 %	0.0 %	10.0 %	10.0 %	↓	収入面での弊害が大きいと、取得を躊躇するケースが殆どである。	月単位や時間単位の取得や、母親の復職後に時期をずらしての取得など、制度を周知することで取得率の向上に向けた取組を行う。
		29	新角田市男女共同参画計画の策定	企画財政課	- (平成26年度)	-	-	策定	-	策定	- (平成30年度に策定済み)	↗	①市民意識調査の結果等を基に、国及び県の計画を勘案し、平成31年3月に「角田市男女共同参画計画(第2次)」を策定した。 ②また、本計画は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律に基づく基本計画、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく推進計画と一体的に策定した。	①本計画に掲げる男女共同参画に関する施策を着実に推進していくため、横断的な連携・調整を図りながら、全庁的に取り組む。 ②また、本計画に掲げる男女共同参画に関する指標の達成状況を毎年把握し、市内の外部有識者等で構成される行政経営推進委員会において進捗管理を行い、取組内容の改善を図る。
		④	角田市に住み続けたいと思う市民の割合 (角田市地方創生に関する市民アンケート調査)	-	52.4 (平成27年度) %	- %	- %	- %	- %	70.0 %	70.0 %	70.0 %	↘	※令和2年度実施の市民アンケート調査の集計結果を実績値とする。
(1)	健康に暮らせる「まちづくり」	30	ウォーキングイベントの参加者数	健康長寿課	1,102 (平成26年度) 人	1,296 人	1,205 人	1,227 人	437 人	1,400 人	1,400 人	↓	①平成29年度からは「スマートかくだチャレンジ事業」の健康ポイント事業のウォーキングとしての位置付け。 令和元年度は、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の関係でイベントが中止になり、参加者数が激減した。 ②健康ポイント事業を健診事業にも拡大、活動量計や体成分分析器等を活用しデータを見える化したことで、健康意識の向上につながっている。 ・あぶQウォーク(菜の花コース) 57人(市外除く) ・大森山ハイキング 50人 ・角田地区振興協議会ウォーキング 68人 ・横倉地区振興協議会ウォーキング 38人 ・高畑南地区ウォーキング 雨天中止 ・東根地区振興協議会ウォーキング 雨天中止 ・あぶQウォーク(斗蔵山コース) 26人(市外除く) ・横倉地区振興協議会ウォーキング 台風中止 ・小田地区とくらまつりウォーキング 台風中止 ・枝野歩け歩けウォーキング 雨天中止 ・阿武隈リバーサイドウォーキング 台風中止 ・東根地区振興協議会ウォーキング 台風中止 ・西根自治センター ウォーキング 台風中止 ・北郷地区ウォーキング 台風中止 ・角田地区お茶っこウォーキング 台風中止 ・桜地区振興協議会ウォーキング 81人 ・ウォーキング教室 117人 ※ 令和元年度は下記のウォーキング予定なし 牟宇姫花見ウォーキング、角田市保健福祉まつりウォーキング、かくだ牟宇姫ひなまつりウォーキング、Kスポかくだウォーク	①今後も「スマートかくだチャレンジ事業」の一事業である健康ポイント事業として位置づける。なお、「スマートかくだチャレンジ事業」は3年事業であったが、令和2年度も継続して行う。 ②他課や自治センター、地区振興協議会、行政区などと連携を図り、地区等で実施するウォーキングイベントを健康ポイント事業として支援する。 ③活動量計や体成分分析器等の活用によるデータの見える化のさらなる周知を図り、健康づくりに関心をもってもらうきっかけづくりをしていく。 ④令和元年度から、阿武隈リバーサイドマラソン大会にウォーキングの部が新設されたことから、一定の参加者数が見込まれる(元年度中止)。
		31	(仮称)角田市民自治基本条例の制定	まちづくり交流課	- (平成26年度)	-	-	-	-	制定	- (制定の予定なし)	↗	①少子高齢化の進展に伴い、地域の担い手不足を懸念する声が多く出されている。 ②自治センターを市長部局に移管し、地域のコミュニティを継続可能なものとするための取組に着手している。	①協働のあり方や推進体制等について議論を進め、行政と市民の役割について整理を行い「角田市協働のまちづくり推進基本指針」の見直しを図る。 ②今後の地域運営を持続可能なものとするために、福祉や防災の視点にたった取組を進める。 ※自治基本条例は制定の予定なし。
		32	LED防犯灯の設置数	防災安全課	967 (平成26年度) 基	1,148 基	1,237 基	1,321 基	1,386 基	1,254 基	1,492 基	1,492 基	↑	①令和2年3月末現在、防犯灯総数は1,664基でその内訳は、蛍光灯型278基、LED型1,386基で、LED化率は83.3%となっている。 ②各行政区より設置要望が20基(令和2年2月21日現在)となっている。 ③みやぎ環境交付金を活用し増設している。

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

※ ○ = 達成 : 令和元年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 ↑ = 達成見込 : 令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの  
 ↓ = 要努力 : 現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの  
 - = 算定不能 : 現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

基本目標	基本的方向	数値目標 重要業績評価指標(KPI)		担当課	基準値	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	令和3年度 目標	令和元年度達成状況及び担当課評価			
		No.	指標名									達成状況 (※参照)	現状分析	今後の取組(改善)	
	(4) 安心して暮らしやすい「まちづくり」	33	阿武隈急行線における市内4駅の年間定期外利用人数	まちづくり交流課	186,181 (平成26年) 人	181,154 人	185,041 人	187,066 人	133,771 人	195,490 人	130,326 人	○	令和元年東日本台風により甚大な被害を受け県境路線が運休になっている影響を踏まえ、目標値を見直したが、早期に一部区間の運行を再開したことから、一定程度の利用者数は確保された。	①会社の経営は依然厳しい状況にあるため、経営改善に向けた取組を行う。 ②新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながらも利用促進に向けた具体的な取組として、車両更新に伴いニューデザイン車両の運行、あぶQフライデー(企画切符販売)、仙南シンケンファクトリー・JAXA角田宇宙センター等市内関係団体と連携したツアー等の企画運営に努める等、様々な施策を展開し、利用促進を図る。	
		34	幹線市道改良率	都市整備課	89.1 (平成26年) %	89.3 %	89.3 %	89.3 %	89.5 %	89.6 %	89.6 %	↓	実績的には数値が伸びている状況だが、これは側溝整備の完了等により、規格改良済みとなった路線があったためである。ただし、今後については、令和元年東日本台風に伴う災害復旧優先のため、通常の道路改良については、人的側面・財政的側面の両面から大幅な縮小が避けられないことから、目標達成は難しい状況にある。 規格改良済(m)/実延長(m)=改良率(%) 平成30年度 128,486.6 / 143,900.6 = 89.3 令和元年度 128,723.8 / 143,900.6 = 89.5	①今後とも道路網整備及び交通安全上、幹線道路の改良に努める。 ②幹線道路の見直しをする。	
		35	防災対策の市民満足度 (角田市第5次長期総合計画後期基本計画 市民意識調査)	防災安全課	61.8 (平成26年) %	- %	- %	- %	- %	- %	70.0 %	70.0 %	-	防災対策に関する市の取組について、出前講座などにより、市民への周知を図っている。	出前講座などを通じて防災対策に関する市の取組について、市民への周知を図っていく。
		36	自主防災組織の組織率	防災安全課	81.0 (平成26年) %	92.4 %	93.5 %	94.6 %	94.6 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	↑	①令和元年度は、自主防災組織の結成実績なし(全93行政区のうち88行政区について結成済み)。 ②結成された自主防災組織に対し、防災対策用資機材等整備に要する補助金を交付している。 200,000円+世帯数×100円	残る5行政区についても、引き続き行政区長に自主防災組織の必要性を説明し、100%となるように結成を促していきたい。
		37	(仮称)角田市国土強靱化地域計画の策定	企画財政課	- (平成30年度)	-	-	-	-	-	-	策定	-	令和2年5月に国土強靱化地域計画策定支援業務委託契約を締結し、計画策定に向けた作業を本格化し、令和2年度中の策定を目指す。	令和2年度中に計画を策定する中で、国土強靱化に資する事業(ハード・ソフト)の優先順位付けや重点化を行い、令和3年度中に策定する長期総合計画にも反映させ、計画定な事業の進行を図る。